

令和4年度 箕面市行政視察報告書

(民生常任委員会)

1 日程

令和5年 2月 8日(水)～ 2月 9日(木)

2 視察先

(1) 三重県桑名市(桑名市総合医療センター)

視察項目	市立病院と民間病院との統合、地方独立行政法人化について
視察目的	平成30年5月に開院した地方独立行政法人桑名市総合医療センターの開院に至るまでの経緯と課題を聞き、新市立病院開院に向けた議論に資するため。

(2) 岐阜県(県立福祉友愛プール・アリーナ)

視察項目	岐阜県福祉友愛プール・アリーナの運営
視察目的	障害者用体育施設の運営状況や課題を聞き取り、箕面市での同様施設の必要性を検討に資するため。

(3) 岐阜県岐阜市(岐阜市役所)

視察項目	基幹相談支援事業の事業内容について
視察目的	基幹相談支援事業や重層的支援体制整備事業の先進地を視察することで箕面市の支援事業に役立てるため。

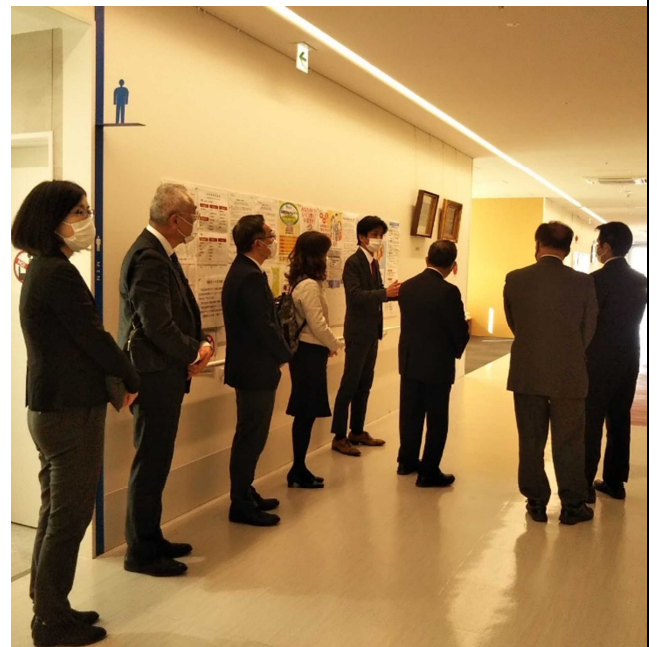
3 参加者

委員	中井博幸委員長、山根ひとみ副委員長、名手宏樹委員、尾崎夏樹委員、楠政則委員、内海辰郷委員
----	--

桑名市総合医療センター

項目	内容	備考
桑名市について	<p>市 勢</p> <p>人 口 139,712人</p> <p>世帯数 60,379世帯</p> <p>面 積 136.65km²</p> <p>予算規模</p> <p>一般会計 52,674,172千円</p> <p>特別会計 29,158,690千円</p> <p>企業会計 14,261,001千円</p>	
桑名市総合医療センターについて 法人概要	<p>名 称 桑名市総合医療センター</p> <p>開設者 地方独立医療法人 桑名市総合医療センター 理事長 竹田 寛</p> <p>病院長 登内 仁</p> <p>病床数 400床</p> <p>診療科 34診療科</p>	
統合の経緯	<p>H18年1月 桑名市民病院あり方検討会設置</p> <p>H21年10月 桑名市民病院と特別医療法人和心会平田循環器病院が統合。地方独立行政法人桑名市民病院本院と同分院に名称変更</p> <p>H24年4月 地方独立行政法人桑名市民病院と医療法人山本総合病院が統合し662床の地方独立行政法人桑名総合医療センターに名称変更。本院は桑名西医療センター、分院は桑名南医療センター、山本病院は桑名東医療センターに名称変更。</p> <p>H24年7月 桑名市総合医療センター基本構想基本計画を策定</p> <p>H27年8月 旧山本病院跡地に新病院を着工</p> <p>H30年1月 新病院新築工事竣工</p> <p>H30年5月 3病院を統合し400床の新病院開院</p>	
市議会のかかわり	<p>H17年12月 市民病院調査特別委員会を設置</p> <p>H21年3月 地域医療対策連絡協議会を設置</p> <p>H22年9月 『桑名市民病院の再編統合と地域医療の充実に関する決議』を採択。内容は</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 医師会や三重大学との協議の場の設置、県・外部有識者からの意見聴取など、再編統合に向け調査・研究を 	

	<p>進めること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 桑名市地域医療対策連絡協議会で出された諸課題の解決に努めること <p>H24年3月 新病院の整備に関する特別委員会を設置</p>	
再編統合に至った事情	<ul style="list-style-type: none"> ● 桑名市民病院は昭和41年に設置され老朽化が進んでいた ● 旧市立病院は交通利便性が悪い ● 医師不足等による慢性的な赤字体質 ● 北勢医療圏は病床過剰地域だが桑名市には自己完結型の二次医療病院が無く、重篤患者の多くは市外・県外の病院に搬送せざるを得ない等の理由で、病院の改革を求められていた ● 再編統合を行った2つの民間病院も老朽化していたが自力で建替える意思が無い ● このままでは3つの病院が共倒れになる可能性があることから、再編統合で中核病院にする様、市内外から指摘される。 	
地方独立行政法人となった経緯	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成18年に設置された桑名市民病院のあり方検討会で、『基本機能のあり方』、経営改善のあり方』、『経営形態の在り方』が議論され、非公務員型の地方独立行政法人が望ましいとの答申が出る。 ● 平成20年12月議会で旧市立病院の非公務員型の独立行政法人化が議決。 	
非公務員型地方独立行政法人に対する市立病院職員の受け止め	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民病院の状況を見て、病院職員も改革が必要との共通認識が出ていた ● 職員説明会を4回開催 ● 組合交渉を10回開催 ● 院内広報を15回発行 ● 職員向け相談窓口の開設 ● 今は、頑張れば報われるといった意識で働く人が多い 	
400床にした理由	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域が求める二次医療ができる自己完結型の急性期病院が必要。 ● 持続可能な規模 ● 医師を確保するために最低限必要な規模 	
同センターの医師や病院職員の確保状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 竹田氏が三重大学医学部附属病院長の職を辞して同センターの理事長に就任 ● 理事長が医師会や県と良好な関係が有った。 ● 理事長を慕って、多くの医師・ナースが集まった。 	



所感

桑名市総合医療センターが誕生できたのは「このままではいけない」という市民を始め関係者の意識の共有があったことが大きかったことがまず挙げられると思う。再編統合に応じた2つの民間病院もいずれもが建替えをしてまで病院を存続させる意思がなかったことに加え、議会が強く病院改革を迫り、再編統合による持続可能な病院建設に先導的な役割を担ったことも大きいと思う。そして、同センターがうまく運営できている大きな要因は三重大学病院長という要職をなげうって現職に赴任した理事長の存在が大きいと思う。その思いに応えようとした医師会等の関係者、人柄に魅せられた医師や看護師など、様々な場面で重要な役割をこなしてこられた。

新箕面市立病院も再編統合に向かって進もうとしているが、成功するか否かは運営を任せようとしている医療法人にかかっていると思う。その医療法人が、医師会や医師や看護師などに強い影響力を持つ大阪大学病院とどのような関係を築くことが出来るのかが最重要であろうと思う。また、現病院で働いている職員さんへの配慮も大切だ。桑名市では、かなり丁寧な対応をしたとは思いますが、病院ありかた検討会の答申に書かれてあった「病院は患者のためのものであって、職員のためのものではない」という一文に納得した。箕面市は老朽化した病院の建替えに臨もうとしている。一度建ててしまえば、40年以上それを利用しなければいけない。我々は、これからどのような病院が必要とされるのかを見極めることが求められている。最後に竹田氏（理事長）のアドバイスを紹介したい。

「今度のコロナ騒ぎを見ても分かるように、小さな病院は淘汰されある程度の規模でないと病院として存続できなくなる。確かに独立行政法人にしる、指定管理にしる未知の世界だから躊躇すると思う。しかし、ためらわずに進みなさい、必ず道は開けますよ」

岐阜県立友愛プール・アリーナ

項目	内容	備考
運営状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 両方とも岐阜県の障害者用運動施設である ● 両方とも一般社団法人岐阜県障害者スポーツ協会が指定管理している。 	
利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 主に障害者や高齢者施設の利用者が利用しているが、空きがあれば一般の方の利用も可能 ● コロナ禍の影響で施設の休止などで大きな影響が出た、今も利用制限を行っている。 ● きめ細やかな設備で障害者や付き添いの方に非常に好評 ● 遠方の利用者にバスの手配もしているのが好評 ● 近所の健常者の方から利用が制限されると怒られる。 	
利用料金	<ul style="list-style-type: none"> ● 県が運営する施設なので非常に廉価 	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ● プール施設の維持費が電気代等の高騰 ● 新しい施設で不都合はないが、今後大きな補修が出てきた時の対応 ● 今後はどのタイミングで通常営業に戻すのか。 	

